【原稿の体裁チェック】

執筆要領を参照のうえ版下原稿を作成し、提出する。

原稿の余白は、上端19mm，下端24mm，左右各20mm、二段組み本文の段組間隔は8mm

１頁は和文の本文相当で、3,000字、本文は、１行あたり25文字で１頁は60行2段組。

１頁目は標題、氏名、所属機関、要旨、キーワード等の記載分だけ本文記入が削減されるので、2頁目より、 本文3,000字とする。

英文氏名は、名を先に姓を後に書く。名は先頭文字のみ大文字にし、姓は全てを大文字とする。

各人の氏名には「所属機関・職位」記入との対応を示す肩つき記号を付ける。

発表者全員の所属機関、連絡先（住所または電子メールアドレス）を明記する。

要旨に使用されるフォントは、和文は明朝9ポイント、英文はTimes New Roman 9ポイントで、それぞれ7行以内に収める。

キーワードは3～6語、 和文と英文で記載する。

本文は、明朝体9ポイント。

章の見出しはゴシック10ポイント、節・項の見出しはゴシック9ポイント。

章と章との間は１行空白行を取る。

図・表・写真と本文の間は１行程度の空白行をとる。

図・表・写真の横には原則として本文を記入しない。

図・表は仕上がりで十分に判読出来るよう、鮮明かつ適当な濃度で作成する。

図・表・写真にはそれぞれ、図1、図2･･･、表1、表2･･･、写真1、写真2･･･、など章ごとに分けずに通し番号を付ける。

図・表・写真の題の記入位置は、図・写真の場合その直下、表の場合はその直上とする。

図・表・写真の題の番号は【 】〔 〕－（ハイフン）などを付けないで、原則ゴシック体にする。

注・謝辞・参考文献は本文に含まれ文字の大きさは8ポイント。

注や引用の記述形式は、別添の「日本災害福祉研究会研究誌『災害福祉研究』執筆要領〔引用法〕」によるものを原則とする。

投稿原稿に利用したデータや事例等について、研究倫理上必要な手続きを経ていることが望ましく、手続きを経ている場合は本文または注に明記する。

【送信ファイルの確認】

送信する原稿は、１つのファイルにまとめること。

ファイルには、拡張子（.pdf）がついていること。

ファイルサイズは、２MB(2,048KB) 以下 であること。

セキュリティを設定したファイルは受け付けません。

【確認・誓約項目】

この論文・研究ノートは当研究誌のみに投稿しており、他誌に掲載されたことはなく、投稿中でもありませんか？（投稿要領に示す「既発表のものでも投稿できる範囲」を除く）

同じデータ・事例・資料等に基づいて投稿者及びそのグループが執筆した別の論文・報告書等（共同執筆も含む）がある場合、投稿時に添付してください。なお、添付する資料には、既発表論文・報告書等のみならず、現在査読中であるものも含みます。

「研究誌投稿要領」「研究誌査読要領」「災害福祉研究（論文・研究ノート）の執筆要領と和文原稿作成例」を確認し、本要領に同意・遵守しますか？

共著論文の場合，論文内容に関して、著者間で了解が得られていますか？

筆頭著者は正会員であり、共著者は本会の会員（掲載される当該年度の会費を納入した状態）ですか？

審査途中や採用決定後、著者を投稿時と別人に入れ替える、著者の順番を入れ替える、著者を増減させることはできません。

掲載料は「研究誌投稿要領」に記載された内容を確認し、請求後は遅延なく料金を支払ってください。

「災害福祉研究」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し、原稿の内容については著者が責任を持つことになります。したがって、印刷後発見された誤植や内容の変更はできません。

登載決定となった原稿は当研究会のWEBページ及びJ-STAGEへWEB公開されます。

原稿に不備・誤記等がないことを確認しましたか？

原稿を送信した時点で投稿完了となり審査に進みます。審査中は修正判定となるまで変更は一切できません。

　上記、すべて確認しました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日付：　　　　　　年　　　　月　　　　日

署名：